TECHNICAL DATA

塗装仕様	水性セラミック配合 アクリルシリコン樹脂断熱塗料
製品名	キクスイガイナ

下塗材： カチオン系アクリル樹脂下塗材
「ガイナ水性カチオンシーラー」

第3版　作成日：2023年 4月 1日

菊水化学工業株式会社

施 工 仕 様 書

塗装仕様： 水性セラミック配合アクリルシリコン樹脂断熱塗料

製 品 名： キクスイガイナ

適応下地： コンクリート、モルタル、窯業サイディング、各種旧塗膜 など

1. 工程表 (23℃)

工　程		材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間(hr)	所要量
素地調整		ゴミ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂分などの付着物をワイヤーブラシ、かわすきサンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。 塗替え時は高圧水洗を行い、チョーキング等の付着物を除去し清浄な面とする。				
下塗り		ガイナ 水性カチオンシーラー 主材：15kg 無希釈	はけ・ウールローラー エアレススプレー 等	1	3以上	80～150㎡/15kg 0.10～0.19kg/㎡
上塗り	ウールローラー仕上げ	キクスイガイナ 主材：14kg 清水：0～1.5L	はけ・ウールローラー	2	3以上	30～35㎡/14kg 0.40～0.46kg/㎡
	吹付フラット仕上げ	キクスイガイナ 主材：14kg 清水：0～3.0L	エアレススプレー	2	3以上	30～35㎡/14kg 0.40～0.46kg/㎡
	砂骨ローラー仕上げ	キクスイガイナ 主材：14kg 清水：0～1.5L	砂骨ローラー 極細目	2	3以上	30～35㎡/14kg 0.40～0.46kg/㎡

注1 施工用具・条件は代表的なものです。

注2 間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。

注3 所要量の確認は塗見本との比較または単位面積当たりの使用量で確認してください。

注4 カビの発生が危惧される場所、防カビ・抗菌対策が要求される施設等については、防カビ・抗菌性能を高めた「防カビ抗菌仕様」を使用してください。
「防カビ抗菌仕様」は、各ガイナに専用の抗菌防カビ剤（14kg用：280g、7kg用：140g）を入れ、よく撹拌して使用してください。

2. 材料荷姿

下塗材： ガイナ水性カチオンシーラー	NET： 15kg/缶
上塗材： キクスイガイナ	NET： 14kg/缶

3. 施工要領

3-1. 素地調整

〇素地の乾燥は、十分に行ってください。(含水率10%以下、pH10以下)

〇素地に巣穴、段差などがある場合は、セメント系下地調整材「ＢＲ＃１５」等で処理を行ってください。

〇旧塗膜に浮き、剝がれなど劣化部や脆弱部がある場合は、サンダーや皮スキなどで除去してください。

3-2. 材料の混ぜ合わせ

下塗材

〇使用前に均一に混ぜ合わせてください。

上塗材

〇使用前に指定の希釈材、指定の希釈量を守り、均一に薄めてください。

3-3. 施工

下塗り

〇下塗りは、下地の吸い込みのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように塗り付けてください。

上塗り

〇上塗りは、色むら、だれ、仕上りむらのないように均一に塗り付けてください。

〇上塗材の希釈率は、試験塗りなどにより決定し、それ以降は同一の希釈率で使用してください。
希釈率は、塗料の色相や施工時の気温により変化します。

〇ローラー塗りの場合は、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。

〇ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることが有ります。

〇希釈や温度、湿度の影響により変色する場合があります。

成 分 表

下塗材 ：ガイナ水性カチオンシーラー

内　　容	重　量（%）
変性アクリル樹脂エマルション	100.0
計	100.0

性 能 試 験 成 績 書

塗装仕様	カチオン形アクリル樹脂下塗材	
製品名	ガイナ水性カチオンシーラー	
試　験　項　目		結　果
付着性	JIS K 5600 付着性(クロスカット法)に準拠。	分類0 (100/100)
硬度	JIS K 5600 ひっかき硬度(鉛筆法)に準拠。	HB
耐水性	水中浸漬96時間後，塗面にしわ・膨れ・割れ・剥がれを認めず，つやの減少・くもり・変色の程度が大きくないこと。	合　格
耐アルカリ性	飽和水酸化カルシウム溶液中に48時間浸漬，割れ・膨れ・剥がれ・軟化・溶出がなく，くもり・変色が著しくないこと。	合　格
耐塩水性	3%塩化ナトリウム溶液中に7日間浸して塗膜に剥がれ・割れを認めないこと。	合　格
透水性(ml)	JIS A 6909 透水試験Ｂ法に準拠。	0.2

ー以下余白ー

＊上記数値は代表値であり，製品の数値等を保証するものではございません。あらかじめご了承下さい。

一 般 的 な 注 意 事 項

≪下　地≫

○ 下地がコンクリート、モルタルの場合は、下地の乾燥を十分行ない、含水率 10%以下、pH10以下で施工してください。

○ かびや藻が発生している場合は、塩素系漂白殺菌剤「ＫＳクリーナー」などで殺菌洗浄を行ってください。

○ ALCやコンクリートなどで巣穴、段差がある場合は、下地調整塗材（JIS A 6916相当品）等で処理してください。

○ 無機塗料、特殊下地への塗装及び特殊塗装の場合は、最寄りの弊社営業所にご相談ください。

○ 布クロス、紙クロス、汚染防止加工されたクロスには塗装しないでください。剥離を起こす場合があります。

○ プラスターボードへの塗装はパテかい部とそれ以外の面で吸込みの違いが生じ、色むらなど仕上がりに影響が出る恐れがあります。下塗りを塗装して均一な状態にしてください。

○ ドアのゴムパッキンなど可塑剤を含むものやシーリング材への塗装は塗膜の汚染、剥離などが起こる場合があります。詳しくは最寄りの営業所にご相談ください。

○ 合成皮革、ゴムパッキン、軟質塩化ビニル製品などは、塗膜との接触を避けてください。可塑剤のブリードによる粘着が起きる場合があります。

○ 蓄熱しやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など）に塗装する場合は、蓄熱や水の影響、下地の状態、塗装時の環境など、いくつかの条件が重なることで建材の変形、塗膜の膨れ、剥離が生じることが有ります。

○ 大きな動きが予想される部位への塗装は、塗膜がひび割れまたは剥離する可能性があります。

≪環　境≫

○ 塗膜の乾燥過程で水分の影響（高湿度、結露、降雨等）を受けた場合、塗膜表面が白化することがあります。施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上又は結露の発生が考えられるなど水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。

○ 外部施工で降雨、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないでください。

○ 絶えず結露が発生するような部位、場所への塗装はしないでください。

○ 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度上昇を防止してください。

○ 施工時は換気を十分に行ってください。

≪施　工≫

○ 施工時は飛散防止として養生は十分に行ってください。

○ 施工面とその周辺（車や付帯設備を含む）や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工箇所周辺に適切な養生を行ってください。

○ 乾燥途中で降雨等が予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に水分が当たらないようにしてください。

○ 塗料は、均一にミキサーで攪拌してから使用してください。

○ 材料の希釈量は、所定の希釈量範囲内、所定の所要量で事前に試験塗りなどを行ない、決定してください。希釈の過多、不足はダレや隠ぺい不足、仕上がりムラの原因になります。
○ 各種施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確保してください。
○ 色、模様の決定に当たっては事前に見本板で確認してください。
○ 被塗物の形状、膜厚、塗回数、希釈量などの違いにより実際のつやと異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時の塗継ぎ箇所でも起こる場合があります。
特に艶調整品は、被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間等により実際の艶と若干違って見える場合がありますので、試し塗りの上、本施工してください。
○ 既存塗膜の剥離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
○ 傷などで補修塗りが必要な場合がありますので、補修用に使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。
○ 他の材料と混合して使用しないでください。
○ 水性塗料には動物毛の刷毛は固まり塗装に支障が出ますので化繊の刷毛を使用してください。
○ 使用後は塗装器具を十分に洗浄してください。
○ 溶剤形の下塗を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。
○ シーリング材は可塑剤の含まないノンブリードシーリング材を使用してください。
シーリング材の上へ直接施工する場合、シーリング材の種類や材齢によって塗膜の汚染、剥離、収縮割れなど不具合を起こすことがあります。詳しくは最寄りの営業所にご相談ください。
○ 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。
磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず施工面のマスキングを行ってください。

≪材　料≫

○ つや調整品は、はけ、ローラーでの塗装でムラが出やすくなります。
スプレー塗装をお勧めします。
○ つや調整品は、塗料が分離しやすいので、良くミキサーで混ぜながらご使用ください。
○ 刷毛塗りとローラー塗り、スプレー塗りが混在する場合、施工方法の違いで若干の色相差が生じます。希釈量を調整するなどして塗装してください。
○ 濃色や原色に近い色彩では塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。
衣類などに触れる可能性のある部位への施工は行わないでください。
施工する場合は、クリヤーによる保護塗装を行ってください。
○ 上塗りに黄色、赤色、青色、緑系の彩度の高い色を塗装する場合、隠ぺい性が不足する場合がありますのであらかじめ中塗りとして共色を塗装してください。
○ 希釈した材料を後日使用すると、色相が変わる場合があります。
希釈した材料は、その日のうちに使い切るようにしてください。
○ 防藻、防カビ効果は、繁殖を抑制するものです。施工部位の形状、構造、環境条件によっては防藻、防カビ効果が十分に発揮されない場合があります。また、すでにカビ、藻が繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理を行ってください。
○ 施工部位により、傾斜壁の下端部、水切りの無い部位、窓周りで水切りが不十分な場合、

雨掛りの少ない部位などは低汚染性が十分に発揮されない場合があります。

○ 施工後、塗膜が乾燥するまでの間に、塗膜表面に長時間水がかかった状態になると、艶引け、ひび割れ、変色等が発生する場合があります。
また、艶消し品や濃色品では低温時、湿度が高い状況下などで塗膜に艶が出たり、白濁、塗膜中の成分の流出が起こる場合があります。

≪保　　管≫

○ 直射日光下や屋外、0℃以下での保管はしないでください。

安全衛生上の注意事項

- 製品の取扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS(安全データシート：旧MSDS)を参照してください。
- 取扱い後は手洗い、うがいを十分に行なってください。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、防毒・防塵マスクなどを着用してください。
- 目に入った時は直ぐに水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- エポキシ樹脂系の材料は、皮膚にかぶれを引き起こす恐れがあります。
皮膚に付着しないよう特に注意してください。
- 皮膚についた場合は、多量の水と石鹸で洗ってください。また、皮膚刺激または発疹が生じた場合は、診断を受けてください。
- 粉じん、蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。
- 開封後、やむを得ず保管する場合は無希釈の状態で密栓して冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあり危険です。
絶対に行わないでください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。
- 塗料、塗装器具を洗浄した汚水はそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。

＊本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。
施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照し、適切な対策を取るようにしてください。